

市民公開講演会：花粉症とかしこく付き合うために  
2. 花粉症の種類はこんなにたくさんあるのです

宇佐神 篤（東海花粉症研究所、うさみクリニック）

病気の診断では問診が大切です。どういう症状が、何時から、どんなふうに出るかなどを聞いて診断の基盤にするのが問診です。花粉症の問診では「何かアレルギーがありますか？」と訊ねることが多いのですが、その時、「アレルギーはないですが、花粉症があります」というような答えをされる方が少なからずおられます。

実は、花粉症はアレルギー病のうちでも代表格で、花粉症はアレルギー疾患の成り立ちを解明する上でも重要な役割を果たしてきました。

また、花粉症というとスギ花粉症のことと考え、日本にはスギ花粉症しか無いと考えている方もおられます。

そもそも、日本には 1935 年ころには花粉症は無いという論文が書かれ<sup>(1)</sup>、そのように一般に受け入れられ、全くと言ってよいほど花粉症は注目されることがありませんでした。それが、1961 年のブタクサ花粉症の報告<sup>(2)</sup>、それから花粉学会の会員で、花粉学会誌に連載を書いておられる齋藤洋三先生による 1964 年のスギ花粉症報告<sup>(3)</sup>が出るに及んで、わが国にも花粉症が稀ならずあることが証明されることとなりました。

その後、この分野が注目されるようになり、一定の診療手順を踏んで診断された花粉症の種類は、現在までになんと 61 種に及んでおります。

これらを、最新の分類法<sup>(4)</sup>に則り、61 種類の花粉尘アレルギーとして表にまとめました<sup>(5)</sup>。この表に基づいて日本の花粉症、花粉アレルギーを紹介したいと思います。その表では、学名が最も新しい分類にしたがって記されております。学名は外国文献との対比に不可欠ですが、外国旅行で同じものがその地にもあるかを調べる際に威力を発揮します。この新しい DNA 解析に基づく APS 分類に依らない、旧来の分類ですと対比が困難となったりします。実は、日本アレルギー学会でも未だに新しい分類を知らない研究者により、古い分類による報告がなされることが少なくありません。

報告年代順にわが国の報告花粉アレルギーを一覧表にしました。

1961 年のブタクサ花粉症、1964 年のスギ花粉症、1965 年のカモガヤ花粉症と続きます。一方で、植物分類でこれらを見るとどうでしょう。さらには、職業との関係が密接な花粉症も少なからずあります。このように、いくつかの切り口で見つめることにより、日本の花粉症の種類が印象に残り易いようにお話ししたいと思います。

#### 参考にした文献

- (1) Hara, HJ: Hay fever among Japanese, Arch.. Otolog 30: 525-535, 1939
- (2) 荒木英斉: 花粉症の研究、アレルギー、10 (6)、354-370、1961
- (3) 堀口申作、齋藤洋三: 栃木県日光地方におけるスギ花粉症の発見、アレルギー、13 (1、2)、16-18、1964
- (4) 米倉浩司: 高等植物分類表、邑田 仁監修、北隆館、2009、東京